

子育て支援におけるインターネット掲示板の活用

浜崎 隆司¹・荒木 美代子²・高橋 香織²・原 憲慶²

The Application of WWW Bulletins Board as a Means of Support for Child-raising

Takashi Hamazaki¹, Miyoko Araki², Kaori Takahashi² and Noriyoshi Hara²

This research examined the application of WWW bulletins board as a means of support for child-raising and grouped them by coordinator into three divisions, based on their contents. Categories were then created, and the results analyzed by a quantitative method within the framework of 3 roles. As a result, the bulletins were classified into 9 categories/4 groups of bulletins for child raisers, 9 categories/2 groups of bulletins for pediatricians, and 6 categories/3 groups of bulletins for child-care professionals. Finally, 7 functions of internet WWW bulletins board were identified: providing information about problems related to child raising, providing information about illnesses, providing information about kindergartens and nursery school, providing information about development, relieving the stress of child raising, promotion of child-care activities, and dialogue regarding kindergartens and nursery school.

Key Words: child-raising support, child-caring stress, internet WWW bulletins board

問題

近年の家庭環境は大きく変化し、核家族、少子化、女性の社会進出などから育児意識も変化し、父親の育児参加なども叫ばれているものの、未だ育児の大半は母親一人が担っているのが現状である。また、核家族化、少子化の浸透により多くの女性は、育児行動の経験が少なく、乳幼児との接触の少ないまま母親になっているのが現状である(厚生省, 1998)。このような現状での母親の育児に関するストレス(以下、育児ストレス)は大きいものであろう。

育児ストレスに関する研究は多く存在するが、川崎(2000)の育児感情、育児行動の実態についての調査では、「自分の時間を持っている」と回答している母親は12%であった。「子どもを預けて遊びに行く」と回答している母親は0.6%(1人)であったが、一方「気軽に相談できる存在が近くにいる」と回答する母親は30%であった。この結果から、育児中の母親は閉塞的な環境で、常に子どもにかかりきりの生活を送りが

ちになっていることは容易に予想される。厚生省(1998)の調査報告から分かるように、育児経験の少ない母親達にとって、子育てに関しての疑問や不安を解決することは困難であり、そのような状況が一層育児ストレスを深刻なものとしているであろう。

そこで本研究では、最近急速に普及しつつあるインターネット上でのサービスの一つ、参加者間のコミュニケーションサービスに着目する。具体的には電子メール、メーリングリスト、ネットニュース、チャット、WWW(World Wide Web)掲示板などである。これらのサービスによって、参加者は、未知な他者との非対面的コミュニケーション(Computer-Mediated Community: 以下CMC)を行い、インターネット上でコミュニティ形成が可能となった。インターネット上でのコミュニティは、共通する興味、関心を持った人が集まり形成されている。

これまでに行われてきたCMC研究の多くは、非対面的関係においても、対面的関係と同程度の親密な人間関係が形成できるか否かに論点があった。Heim(1992)は、非対面的関係では、対面的関係と比較して、対人関係において重要な、非言語的の手掛かりの伝達が制約

1 鳴門教育大学学校教育学部幼児教育講座助教授
2 鳴門教育大学大学院学校教育研究科修士課程

される結果、頻繁に嫌悪感を感じる関係になりやすいとしている。そのため、親密な関係を形成することは難しいという見解に至っている。

しかし、この非言語的情報の伝達は、時間的な問題であり、対面的関係よりも時間は要するが十分伝達可能であり、時間の経過と共に克服できるという知見も存在する (Walther, 1994; Walther, Anderson & Park, 1994; Walther & Burgoon, 1992)。また、Parks & Roberts (1998) は、MOO (Multi-User Dimensions, Object Oriented) と呼ばれるチャットを通して形成された人間関係と、オフラインでの人間関係との比較検討を行っている。その結果、オフラインでの人間関係と同程度とはいかないまでも、CMCで形成された人間関係においても、親密な関係を形成することが可能であることを報告している。わが国においても、オンライン上での人間関係とオフライン上での人間関係の質的な差異についての検討が行われており、オンラインでの人間関係が、ネット上に限定される特別なものではなく、実生活と同様に認識されている可能性があるという研究結果を得ている (小林・坂元・鈴木・安藤・樞淵・木村・谷田部, 2000)。

このように一連のCMC研究を外観してみると、CMCにおいても親密な対人関係を形成できうるという方向に進みつつあると考えられる。このことは、インターネット上での未知な他者との相互作用が、非対面的な関係であろうと、個々人に親密な人間関係を形成する契機を与える可能性を示唆している。実際、実生活での不適応を改善するためや、不登校、障害児に他者との接触を促すために、インターネットを用いるといった臨床的試みが行われている (小林, 2000)。つまりインターネットの持つ性質は、閉塞的な環境に陥りがちな母親にとっても、家にいながら、好きな時間に他者との接触を図れ、育児ストレス緩和に寄与していると考えられる。実際、育児に関するサイトも数多く設置されており、母親や父親が参加し、育児に関する相談などが日々行われている。

本研究ではコミュニケーションサービス提供の中でも、特に育児に関わるWWW掲示板に焦点を当てる。WWW掲示板は設置・運営コストが低く、以前同様の機能を果たしていたパソコン通信と比較して、WWW掲示板上でのサービスのため、アクセスしやすいという利点を持っている (篠原・三浦, 1999)。また、CMCにおける人間関係は匿名性の高さゆえ、対面的関係よりも自己意識が個人内に向かうため自己意識が高揚し、侮辱や敵対、低俗な表現をすることになる。その結果として、親密な人間関係形成にネガティブに作用するという知見 (Kiesler & McGuire, 1986; Kiesler, Zubrow,

Moses & Geller, 1985) もある。しかしWWW掲示板は、ネット上での質問・レスポンスが一定期間保持されて他の参加者に読まれる。参加者がそのことを意識することにより、上記のような非抑制的行動は少ないことが予測される (篠原ら, 1999)。さらに特定の他者とのリアルタイムな相互交渉を行うチャットとは異なり、WWW掲示板は時間や場所を超えてテーマについてじっくり話し合うことが可能である。育児中の母親にとって、育児の合間により手軽に参加できるものはWWW掲示板であると考えられる。

WWW掲示板も他のサービスと同様、同じ興味・関心を持つ参加者が、書き込み (投稿) や返信をすることで構成されていく。インターネット上での育児に関するWWW掲示板を概観してみると、当該掲示板の作成者兼コーディネーターごとに投稿内容も様々である。小児科医や保育士がコーディネーターとして参加者への返信を主に行っているWWW掲示板もあれば、養育者同士が形成しているものもある。参加者たちもこの差異を利用し、活用していることであろう。

育児支援研究においても、フォーマルな育児支援ではなく、インフォーマルな育児支援に焦点が当てられている。小野寺 (1999) はこの現状を、必要とされるフォーマルな育児支援システムが十分整っていないため、インフォーマルな支援システムに頼らざるを得ない状況を反映していると説明している。本研究で取り上げたWWW掲示板も、インフォーマルな育児支援、特に情緒的・情動的支援に匹敵する機能を果たしていると考えられる。

育児に専念せざるを得ないあまり、社会から孤立しがちな母親たちが共にCMCを通し、育児について未知な他者とのやり取りを通してコミュニティを形成していくことは、前述の通り、育児ストレス緩和に寄与していることが予想される。そのさきがけとしてまず、WWW掲示板の役割を明確にする必要性があろう。

以上のことを踏まえて本研究では、育児に関わるWWW掲示板のコーディネーターに基づき、専門家 (小児科医・保育士) と一般の養育者へと分類する。そして、そこで得られたデータの内容分析を行うことで、育児中の養育者たちがWWW掲示板をどのように活用しているかを探索し、その役割について検討することを目的とする。

方法

1. 調査対象

商用ネットYAHOO JAPANが運営しているYAHOO掲

示板^(註1)を使用した。「育児」の検索に該当するサイトから、コーディネーターが育児中の養育者であり、養育者同士が書き込み、返信を行っているWWW掲示板(以下、養育者掲示板)、コーディネーターが専門家(小児科医、保育士)であるWWW掲示板(以下、それぞれ小児科医掲示板、保育士掲示板)の内容を無作為に抽出した。前者は4つ、後者は小児科医2つ、保育士1つの計7つのWWW掲示板を後の分析に用いた。本研究では、一般の養育者がWWW掲示板をどのように活用しているのかを探索し、その活用法を見出すことを目的としているため、専門家の掲示板においては、専門家自身から発信されるものは除外した。

2. 対象収集期間

2000年12月25日～2000年12月28日。

3. 対象調査期間

養育者掲示板：2000年11月3日～2000年12月24日。小児科医掲示板：1999年8月4日～2000年12月27日。保育士掲示板：2000年8月27日～2000年12月27日。

4. WWW掲示板参加人数(ハンドルネーム数)

養育者掲示板：全333件中、180のハンドルネームが存在していた。小児科医掲示板：全213件中、138のハンドルネームが存在していた。保育士掲示板：全157件中、62のハンドルネームが存在していた。

インターネット上では通常、個々人のプライバシー保護のため、ハンドルネームを使用する。よって個人が2つ以上のハンドルネームを使用することもあり、実際の参加人数は上記よりも少ない可能性も考えられる。

5. 調査方法

(1)カテゴリー設定

養育者掲示板・小児科医掲示板・保育士掲示板それぞれの内容を参考にし、大学院生2名でカテゴリー設定を行った。この際、掲示板間で類似したカテゴリーがあった場合、カテゴリー設定も類似させた。

養育者掲示板においては、「育児に関する質問」「育児報告」「子ども自慢」「養育者の身体的・情緒的問題」「夫婦問題」「夫婦以外の対人関係」「子どもの病気」「井戸端会議」「お礼」の8カテゴリーに分類された。小児科医掲示板においては、「病気の対処法」「薬に関する質問」「病気に関する質問」「病気診断」「子どもの癖」「予防接種」「発達」「お礼」「その他」の9カテゴリーに分類された。保育士掲示板においては、「園行事」「園の運営形態」「家庭と保育の連携」「子ども同士のトラブル及び園の対処法」「発達」「その他」の6カテゴリーに分類された。設定カテゴリーの詳細については以下の通りである。

①養育者掲示板

「育児に関する質問」は、授乳や食事など、育児全般に関わる質問から構成されている。例えば「娘は最初からおっぱいだけではならず、ミルクを足していました。しかも、哺乳ビンを出したら欲しがるといった具合で、大量に飲みます。大丈夫でしょうか。」などである。

「育児報告」は、育児に関する苦勞や工夫などについての報告や情報提供・レスポンスから構成されている。例えば「娘は毎晩夜中の3時くらいに起きます。そのため、私は寝不足です…。」などである。

「子ども自慢」は、養育者の子どものかわいさを述べているものから構成されている。例えば「下の子が、3年前のビデオの中の私(母親)に向かって、『ママ』と擦り寄って行ってかわいいんです。」などである。

「養育者の身体的・情緒的問題」は、養育者・主に母親の身体の変化や異常についての質問や疑問、育児ストレスから構成されている。例えば「出産して風邪を引きやすくなりました。これは、出産のため身体の抵抗力が弱くなったからなののでしょうか。」や、「2人目を妊娠中です。つわりもひどくて、必要以上に息子をきつく叱ってしまいます。すごく後悔して辛いです。」などである。

「夫婦問題」は、夫の育児参加や夫婦関係についての報告や質問から構成されている。例えば「主人は、ほとんど育児に参加してくれないんです。自分のやりたいことの方を優先する傾向があるんです。一般的に、夫とはそんなものなののでしょうか。」などである。

「夫婦以外の対人関係」は、幼稚園の先生や近所の子、義父母とのトラブルに関する質問や報告から構成されている。例えば「夫婦共働きをしています。子どもは夫の実家に預けています。初孫でとても喜んでくれているのですが、育児はとてはずさんなんです…。」などである。

「子どもの病気」は、子どもの病気に関する質問や近況報告・質問へのレスポンスから構成されている。例えば「娘がマイコプラズマ肺炎にかかってしまい、連夜イヤな咳をしています。病院では薬しか処方されていないのですが、大丈夫でしょうか。」などである。

「お礼」は、レスポンスに対するお礼から構成されている。

「井戸端会議」は、育児とは関係の薄い日常的な話題、最近自分自身に起こった出来事の報告や質問から構成されている。例えば「行って来ましたディズニーランド。最初はあまりのり気ではなかったのですが、子どもの喜ぶ顔を見て、やっぱり来て良かったと思いました。」などである。

②小児科医掲示板

「病気の対処法」は、主に子どもが現在患っている病気や身体の異常、家庭内での事故について、どのような処置を行っていくべきかの質問から構成されている。例えば、「子どもが風邪のため下痢をしています。食事が取れなければ、点滴をしてもらった方がいいのですか。」などである。

「薬に関する質問」は、何らかの病気のため、病院で処方された薬やその副作用に関する情報提供を求めるものから構成される。例えば、「よく39度台の発熱をします。熱が出るといつもケフラールという抗生剤とアンチビオフィルズという粉末とシロップを処方されます。ここで抗生物質は必要なのでしょうか。」などである。

「病気にに関する質問」は病気自体の情報提供を求める質問から構成されている。例えば、「水疱瘡の潜伏期間中の子どもと遊んだんですが、その場合もうつるのでしょうか?もしうつっていたら、潜伏期間はどのくらいなのでしょう。」などである。

「病気診断」は、子どもの掻破行動や便の色の異常など、現在の状況から推測される病気にはどのようなものがあるかといった質問から構成される。例えば、「風邪気味で下痢をしてましたが、その下痢に血が混ざるようにになりました。これは風邪からくるものなのでしょう。それとも他の病気なのでしょう。」などである。

「子どもの癖」は、子どもの異常行動や異常な癖への質問から構成されている。例えば「娘は私(母親)の髪を抜いて食べる癖があります。便に髪の毛が混ざって出てきます。大丈夫でしょうか。何か対処法がありませんか。」などである。

「予防接種」は日本脳炎やインフルエンザに関する質問から構成されている。例えば「以前ヘルペスにかかっていたのですが、完治後どのくらいで予防接種は受けられるのでしょうか。」などである。

「発達」は、子どもの月齢に似合った発達を懸念する養育者からの質問から構成されている。例えば「子どもは3ヶ月なんです、5060gとかなり小さめです。おっぱいも1回90cc位しか飲みません。大丈夫でしょうか。」などである。

「お礼」は、レスポンスに対するお礼から構成されている。

上記8カテゴリー以外の内容については「その他」に分類した。

③保育士掲示板

「園行事」は、運動会や保育参観など、園で行われる行事についての報告や要望に関するものから構成され

る。例えば「運動会がありました。しかし、'子どもには競争をさせない'という園の方針で“徒競走”や“玉入れ”といった競技はなく、チームダンスなどをやって、味気なく終わりました。私は子どもにも競争は必要だと思います。みなさんの意見を聞かせてください。」などである。

「園の運営形態」は、公立・私立の園の特徴や保育園の選び方などの質問・意見から構成される。例えば「保育園、幼稚園、託児所の違いを教えてください。」などである。

「家庭と保育園の連携」は、園と家での食事法などの連携や園での子どもの様子の連絡などに関する報告、意見から構成されている。例えば「園ではトレーニングパンツをはかせますので、家庭でもお願いされています。」などである。

「子ども同士のトラブル及び園の対処法」は、園での子ども同士のトラブルの報告やそれに対する園の対処法への意見などから構成されている。例えば「先日、うちの子が噛みつかれて帰ってきました。そんな時に、保育士さんはどのような対応をするのですか。」などである。

「発達」は、子どもの月齢に似合った発達を懸念する養育者の質問から構成されている。例えば「1歳5ヶ月になる娘は、未だに‘立っち’‘一人歩き’をしません。恐がりな性格もあると思うのですが、発達の遅い子に対するアドバイスがあればお願いします。」などである。

上記5カテゴリー以外の内容のものは「その他」に分類した。

(2) コーディング

養育者掲示板、小児科医掲示板、保育士掲示板それぞれに設定したカテゴリーに基づき、コーディングを幼児教育専攻の大学院生3名で行った。コーダー3名のうち2名以上の反応が一致したものを採用した。2名以上の一致率は、94%であった(養育者掲示板:99%、小児科医掲示板:93%、保育士掲示板:92%)。複数のカテゴリーに該当するもの、また採用されたカテゴリーでも、見解が収束しなかったものは除外した(養育者掲示板:3件、小児科医掲示板:7件、保育士掲示板:4件)。

結果

各掲示板のカテゴリー間の比較

養育者掲示板・小児科医掲示板・保育士掲示板ごと

	育児 (質問)	育児 (報告)	子ども (自慢)	養育者 身・情	夫婦 問題	対人 関係	子ども 病気	お礼	井戸端	合計
掲示板1	11	8	2	7	7	6	6	5	17	69
掲示板2	0	0	19	1	2	1	1	5	28	57
掲示板3	12	14	4	2	1	1	8	20	50	112
掲示板4	42	11	4	6	2	14	1	2	13	95
合計	65	33	29	16	12	22	16	34	108	333
%	19.50%	9.90%	8.70%	4.80%	3.60%	6.60%	4.80%	9.60%	32.40%	

	病気(対)	薬(質)	病気(質)	病気(診)	癩	予防接種	発達	お礼	その他	合計
掲示板1	27	17	5	30	6	9	0	21	7	122
掲示板2	16	5	0	24	3	4	8	20	11	91
合計	43	22	5	54	9	13	8	41	18	213
%	19.80%	10.40%	2.40%	25.50%	4.20%	6.10%	3.80%	19.30%	8.50%	

	園(行事)	園(運営)	連携	トラブル	発達	その他	合計
掲示板1	20	52	26	27	16	16	157
%	12.70%	16.60%	33.10%	17.20%	10.20%	10.20%	

のカテゴリー一件数は、Table 1～Table 3に示す。コーディネーターが専門家のサイトは、養育者のものより絶対数が少ない上、非公開になっているものが多かった。そのため、本研究で取り挙げた3種類の各掲示板の件数にばらつきがみられる。このことを考慮して後の結果、考察を行っていく。

カテゴリー間の関連を見るために、養育者掲示板・小児科医掲示板・保育士掲示板ごとに数量化Ⅲ類によって分析した。本研究では、各WWW掲示板のカテゴリー間の関連に着目し、検討を行う。

1. 養育者掲示板

養育者掲示板におけるカテゴリーを数量化Ⅲ類を行った結果をFigure 1に示す。カテゴリー間の関連を見てみると、第1群として、「育児に関する質問」「養育者の身体的・情緒的問題」「夫婦問題」「対人関係」「育児報告」、第2群として「子どもの病気」「お礼」、第3群として「井戸端会議」、第4群として「子ども自慢」におおよそ分類される。

次に各群の機能について検討していく。第1群は「育児に関する質問」を始め、育児問題から派生した養育者自身の問題・対人関係における問題についての質問、またそれに関する報告の項目が主たるものである。つまり第1群は、『育児問題に関する情報提供機能』の役割を果たしていると考えられる。第2群については主に「子どもの病気」についての質問、質問へのレスポンスから構成されている。つまり第2群は、『病気にに関する情報提供機能』の役割を果たしていると考えられる。第3群は「井戸端会議」と命名され、日常生活の中で実際に友人との会話に類似した非対面的な会話

のやりとりが主たる内容である。これは、WWW掲示板上で未知な他者との会話をする事で、社会からの孤立感を癒し、ストレスの解消を図っていると考えられ、『孤独感解消機能』の役割を果たしていることが推測される。第4群の「子ども自慢」は、参加者が一方的に子どもの愛らしさについて話し、それに対するレスポンスも無ければ、それを求める内容でもない。つまり、自分の子どもの愛らしさを文章化することで、養育者は子どもに対する愛情を再度認知することになる。そのことが育児行動を助長していることが考えられる。よって、第4群は『育児行動助長機能』の役割を果たしていることが予測される。

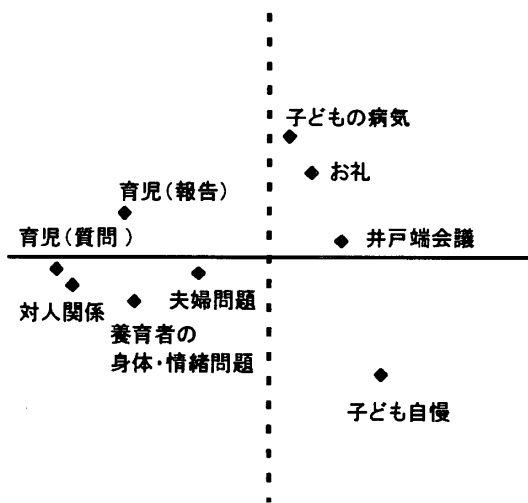


Figure 1 数量化Ⅲ類による養育者掲示板のカテゴリー間の関連

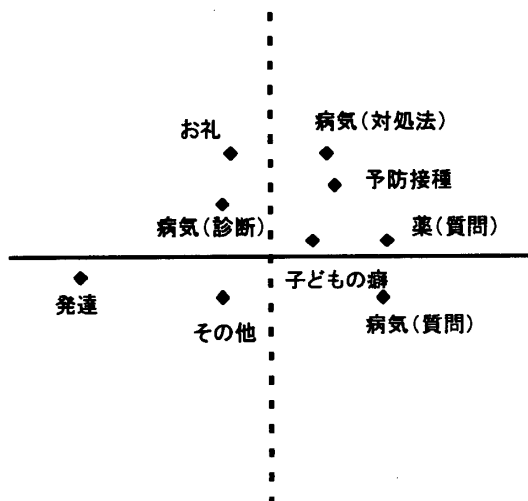


Figure 2 数量化Ⅲ類による小児科医掲示板の
カテゴリー間の関連

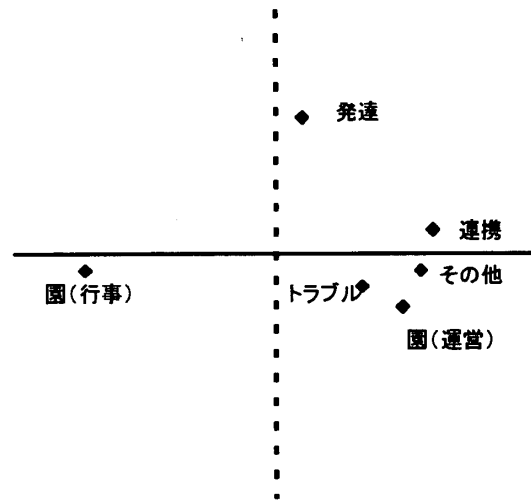


Figure 3 数量化Ⅲ類による保育士掲示板の
カテゴリー間の関連

2. 小児科医掲示板

小児科医掲示板におけるカテゴリーを数量化Ⅲ類を行った結果をFigure 2に示す。カテゴリー間の関連をみると、第1群として「病気の対処法」「薬に関する質問」「病気にに関する質問」「病気診断」「子どもの癖」「予防接種」「お礼」「その他」、第2群として「発達」におおよそ分類されることが認められた。

次に各群の機能について検討していく。第1群は「病気の対処法」や「薬に関する質問」など、病気や医療に関連するカテゴリーから成っており『病気にに関する情報提供機能』の役割を果たしていると考えられる。一方、第2群においては「発達」に関する質問のみから構成されており、『発達に関する情報提供機能』の役割を果たしていると考えられる。

3. 保育士掲示板

保育士掲示板におけるカテゴリーを数量化Ⅲ類を行った結果をFigure 3に示す。カテゴリー間の関連を見てみると、第1群として「園の運営形態」「家庭と保育の連携」「子ども同士のトラブル及び園の対処法」「その他」、第2群として「園行事」、第3群として「発達」におおよそ分類されることが認められた。

次に各群の機能について検討していく。第1群は「園の運営形態」や「家庭と園との連携」など、園の方針についての情報提供を始め、家庭と園との連携といった情報が交換されている。つまり、第1群は『園に関する情報提供機能』の役割を担っていると考えられる。第2群においては、「園行事」に関する意見交換が主なもので、自分の子が通っている保育園や幼稚園の方針について、養育者同士で話し合っている場であろう。つまり、第2群は『園に関する意見交換機能』の

役割を果たしていると考えられる。第3群は子どもの発達に関する情報提供を他者に求めるものから構成されており、『発達に関する情報提供機能』の役割を果たしていると考えられる。

次に各掲示板の機能の内容を参考に、総合的なWWW掲示板の役割について検討していく。まず、養育者掲示板と小児科医掲示板に、『病気にに関する情報提供機能』が見られ、小児科医掲示板と保育士掲示板に、『発達に関する情報提供機能』が見られる。これらを統合した結果、WWW掲示板には『育児問題に関する情報提供機能』『病気にに関する情報提供機能』『園に関する情報提供機能』『発達に関する情報提供機能』『孤独感解消機能』『育児行動助長機能』『園に関する意見交換機能』の7つの機能が見出された(Figure 4)。

考察

1. 育児問題に関する情報提供機能

『育児問題に関する情報提供機能』は、全体の21.1%を占めており、育児に関する情報収集のリソースとなっていることが考えられる。乳幼児との接触の少ない養育者にとって、些細なことでも当事者にとっては大きなストレスになりうる。日下部、坂野(1999)の作成した育児ストレス尺度においても、「子どもへの対応・しつけ方が分からない」に関する因子が抽出されており、育児困難感や、子どもの発達に関する不安が大きなストレスとなりうることを示唆している。また、この尺度には「夫の不理解・育児不参加」の

因子が抽出されている。この機能には、育児問題から派生した夫婦問題や養育者、主に母親の情緒的・身体的問題も内包している。「夫の育児不参加」や「夫の不理解」は、当事者同士でしか解決し得ない問題ではあるが、同じ境遇の他者と、例えば相手の素性を知らなくとも、育児問題を共有することで、妥協点を見出すことも可能となろう。このことは、育児に関する問題においても同様である。育児に関する問題が未解消な状況は育児不安を招き、養育者をさらにストレスフルな状況へと追いやるであろう。この機能は、育児に関する問題が生じた時、個別に問題を解消することを可能とし、養育者のストレスを低減させることとなろう。

2. 病気に関する情報提供機能

『病気に関する情報提供機能』は、全体の35.9%を占めており、このデータを見る限りWWW掲示板において主要な役割を果たしているといえるかもしれない。しかし先にも述べたが、コーディネーターが専門家のサイトは、養育者のものと比較して絶対数が少なく、また非公開のものもある。そのため、3種類の各掲示板の件数に差があり、カテゴリ件数の差だけで役割の重要性を決定することは難しいであろう。

専門的な知識を要する病気や薬に関して、手軽に情報収集が可能な状況であることは、養育者にとって心強いことであろう。実際、この機能は小児科医掲示板のものがほとんどであり、情報に信頼がおける。また、医療機関において子どもに処方される薬や、対処法について、養育者が詳しく聞くことができる機会や場を確保しにくい現状が推測される。この機能は子どもを医療機関に連れて行く前の補助的な問診の場として、また子どもの病気や怪我を懸念する養育者に、個々に合った情報を、手軽に収集することを可能としている。

3. 園に関する情報提供機能

『園に関する情報提供機能』は、全体の17.2%を占めていた。子ども達は、園という初めての社会的な場で様々な葛藤をし、集団生活を送ることで社会性を身につけていく。この発達上重要な時期の多くを過ごす園は、養育者にとっても大きな関心事であろう。保育園に就業経験のある保育士や他の養育者の意見を聞くことで、広い知識や情報を得ることができる。

また、園と家庭は独立でなく、密接に関連しているため、園と家庭、保育士と養育者の問題も生じることもあろう。しかし、子どもが通う園とは今後も関係を継続させていかななくてはならない。この機能は、このようなジレンマを抱える養育者の円滑な対人関係形成にも寄与しているであろう。

4. 発達に関する情報提供機能

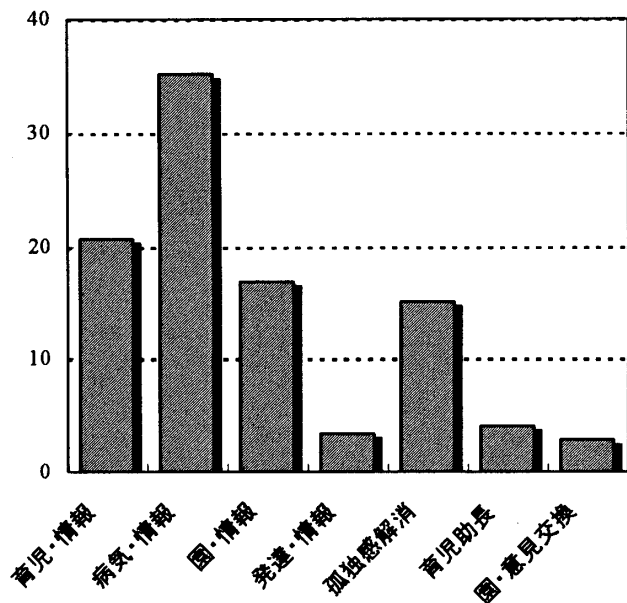


Figure 4 各機能におけるカテゴリ件数 (%)

『発達に関する情報提供機能』は、全体の3.4%と少数であった。しかし、小児科医掲示板と保育士掲示板に見られことを考慮にいれると、子どもの発達遅滞は、病気に匹敵すると考えられる。また、一般に市販されている育児書は、平均的な子どもの発達について記載されていることが多い。育児書通りの発達を遂げない子どもに対して、養育者は不安を抱くであろう。子どもの発達にも個人差があることは知識として有していても、実際自分の子どもがそうであったなら過敏になることは、容易に想像できる。そんな時、手軽に専門家の意見を仰ぐことができることは、そのことがストレスサーとして認知されにくい状況を提供していることとなろう。

5. 孤独感解消機能

『孤独感解消機能』は、全体の15.1%を占めている。養育者同士の日常的な会話から構成されているこの機能は、他者とのやり取りを通じて社会からの孤独感を癒していると考えられる。育児ストレスサーとして、「社会からの孤立」「一人きりで子育てをしている」の因子が抽出されている(日下部ら, 1999)。CMCの特性を生かしたこの機能を見出したことは、閉鎖的な環境で育児をしなくてはならない母親にとって、他者との相互作用が手軽に行え、上記のストレスサー低減に役立っている可能性を示唆している。

6. 育児行動助長機能

『育児行動助長機能』は、全体の4.1%と少数である。この機能は養育者が子どもの自慢を書き綴ったものであり、それに対するレスポンスもなかった。養育者は

日々、多くのストレスを抱えつつ育児を行っている。しかし、「子どもの寝顔を見ると疲れも吹っ飛ぶ」などといった内容から推察すると、子どものかわいさを実感することが、育児への大きな原動力となっているだろう。WWW掲示板で子どもの自慢ができることは、個々人が意識下で育児に対するモチベーションを高めていることが考えられる。

7. 園に関する意見交換機能

『園に関する意見交換機能』は全体の2.8%と、最も少なかった。この機能は『園に関する情報提供機能』とは異なり、保育士をほとんど介在しない会話で成り立っていた。前述のように、園は養育者達にとって大きな関心事の一つである。また、園の運営方針や保育形態も地方で、また個々の園で差異がある。園に対して養育者同士が積極的に議論し、養育者が知見を広げていくことは、園側にも刺激を与えることになり、より良い保育や教育、環境作りに役立つであろう。

8. 本研究の要旨

本研究では、育児支援の一つとしてWWW掲示板の役割を、WWW掲示板の内容をコーディネーター別に3つに分類した。そして最終的にカテゴリー設定を行い、数量化Ⅲ類によって分析した。その結果、養育者掲示板は9つのカテゴリー・4群、小児科医掲示板は9つのカテゴリー・2群、保育士掲示板は6つのカテゴリー・3群に分類された。そして育児に関するWWW掲示板には、『育児問題に関する情報提供機能』『病気に関する情報提供機能』『園に関する情報提供機能』『発達に関する情報提供機能』『育児ストレス解消機能』『育児行動助長機能』『園に関する意見交換機能』の7つの機能が確認された。

(註1) <http://messages.yahoo.co.jp/index.html>

引用文献

- Heim, M. 1992 The erotic ontology of cyberspace. In M. Benedikt (Ed.). *Cyberspace: first steps*, MIT Press.
- 川崎佳代子・小林慎子・北条恵美子 2000 育児感情・育児行動の実態及び関連する要因—4歳未満の子供を育児中の母親の調査から—。母性衛生, 41 (1), 158-169.
- Kiesler, S., Siegel, J. & McGuire, T. W. 1984 Social psychological aspects of computer-mediated communication. *American Psychologist*, 39, 1123-1134.
- Kiesler, S., Zubrow, D., Moses, A. M. & Geller, V. 1985 Affect in computer mediated communication: An experiment in synchronous terminal-to-terminal discussion. *Human Computer Interaction*, 1, 77-104.
- 小林久美子 2000 インターネットと社会的不適応。坂元章(編) インターネットの心理学—教育・臨床・組織における利用のために—。学文社, Pp122-134.
- 小林久美子・坂元章・鈴木香苗・安藤玲子・樫淵めぐみ・木村文香・谷田部賢一 2000 インターネットにおける関係形成—オフラインの関係形成・心理変数・アプリケーション使用との関連—。日本心理学会発表論文, 216.
- 厚生白書 1998 「少子化を考える—子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を—」。
- 日下部典子・坂野雄二 1999 育児に関わるストレスの構造に関する検討。ヒューマンサイエンスリサーチ, 8, 27-39.
- 日下部典子・坂野雄二 2000 育児ストレスの構造に関する検討(2)—3歳児を育てる母親のストレスとストレス反応—。日本心理学会発表論文, 848.
- Lazarus, R. S. & Folkman, S. 1984 *Stress, appraisal, and coping*, New York Springer.
- 小野寺理佳 1999 育児支援をめぐる世代間関係—妻の就業類型を手がかりとして—。北海道大学教育学部紀要, 79, 191-219.
- Parks, M. R. & Roberts, L.D. 1998 Making Moosic the development of personal relationships on line and a comparison to their off-line counterparts. *Journal of Social and Personal Relationships*, 15(4), 517-537.
- 佐々木保行・高橋一彦・本郷一夫 1991 母親の Child Rearing Burnoutに関する基礎的研究(第2報) 鳴門教育大学研究紀要(教育科学編) 6, 273-283.
- 篠原一光・三浦麻子 1999 WWW 掲示板を用いた電子コミュニティ形成過程に関する研究。社会心理学研究, 14 (3), 144-154.
- Walther, J.B. 1994 Anticipated ongoing interaction versus channel effect on relational communication in computer-mediated interaction. *Human Communication Research*, 20, 473-501.
- Walther, J. B. & Burgoon, J. K. 1992 Relational communication in computer-mediated interaction. *Human Communication Research*, 19, 50-88.
- Walther, J. B., Anderson, J. F. & Park, D. V. 1994 Interpersonal effects in computer-mediated interaction. *Communication Research*, 21, 460-487.